サンギ

50周年記念パーティを開催

今年9月に創業50周年を迎えたサンギは、都内で記念パーティを開催した。同社は1974年9月にワインなどを輸入する貿易商社としてスタートし、特許の輸入ビジネスでアパタイト成分と出合い、自らその特許を購入してオーラルケア市場に参入した。オーラルケア分野では、歯や骨の主成分であるハイドロキシアパタイトの研究開発を進め、高価格帯ハミガキや美白ハミガキといった新たな市場を創出した。オーラルケア以外では、スキンケア分野でハイドロキシアパタイトの一種「アパリン」を配合した洗顔料などを展開している。医療機器分野でもハイドロキシアパタイトを用いた新しい治療技術の開発を進めている。

50周年記念パーティには関係者と社員約340名が参加した。創業者の佐久間周治会長と妻で社長のロズリン・ヘイマン氏は挨拶で、50周年を迎えることができたことの喜びとともに、「本当にありがとうございました。そして、これからもありがとうございます」と感謝の意を述べた。

「当社は空中に飛んでいる石のようだ。石は自分の力で飛んでいると思っているが、実際には石を飛ばしている人が存在する。当社は良い時期も悪い時期も経験した。良い時期はみなさんの協力を得られている時、悪い時期は独りよがりになっている時だったと思う。多くの方々のお力添えをいただいて成長することができたことを改めて感じ、『ありがとう』という一言の重みを今、強く感じている」（佐久間会長）

ロズリン社長は「私たちは素晴らしい社員にも恵まれ、今の会社に導くことができた。近年は、オーラルケアだけではなく、様々な分野で新しい市場の開拓を進め、真のアパタイトカンパニーを目指している。これからのサンギにも期待してもらいたい」と話し、こう続けた。

「この50年を振り返って様々な思い出が浮かんできているが、そこには常に自分の信念を貫き、ひたむきに進む一人の姿がある。私は妻としてそんな彼の姿をずっとそばで見てきた。サンギに入り今年でちょうど25年になるが、お互いに弱点を補いながら1つの道を歩めていると思う。これからサンギはこれまでの50年と同じように、険しく、乗り越えなければいけない壁が出てくると思う。これからもみなさんのご指導、ご支援をいただきながら、成長していきたい」

来賓挨拶では、日本歯磨工業会の濱逸夫会長（ライオン相談役）が登壇した。

「ライオンの研究者として、サンギさんのハイドロキシアパタイトという新しい素材はとても興味深いものだった。1つの素材の特性をもとにアイデアと発想でビジネスを作り出し、進化させて成長させていくことはとても難しいことであり、そこにチャレンジし続けているサンギさんはとても逞しい会社だと思う。

また、工業会会長としては、ハミガキ市場において美白高価格帯というこれまで世の中にない、新しい価値を提案されたことに感謝したい。当時、ハミガキが一般消費財として低価格であることが当たり前だった時代に、高価格帯ハミガキという新たな市場の礎を築いていただいた。また、サンギさんと言えば、『芸能人は歯が命』というキャッチフレーズで、オーラルケア業界のマーケティング戦略に大きなインパクトを与えた会社である。サンギさんの製品や技術が今後さらに世界に拡大し、人々の幸せにつながっていくことを期待している」

パーティは和太鼓やジャズなどの演奏を楽しむ時間もあり、佐久間会長が歌唱曲を披露した際には会場も大いに沸いた。会長・社長への花束贈呈といったサプライズ演出もあり、終始盛り上がった。

私の H＆B 日記

時間の使い方

最近、時間を見つけてホットヨガに通うようになった。元々スポーツジムも契約しているものの、仕事終わりにはジムに行く体力が残っていないことが多く、最近は行く頻度が減っていた。そのような中で、ホットヨガの存在を知った。ホットヨガの特徴は、高温多湿な環境（温度は35～40℃、湿度は55～65％）で行われることだ。高温多湿の中で行うヨガは、体を温めるだけでなく、代謝を促進する効果がある。激しく動くことは少なく楽なポーズが多いため、仕事終わりで疲れている時でも通いやすい点が魅力だと感じている。さらに、身体の体温が上昇することで寝つきが良くなり、睡眠の質も高まったように感じている。

筆者はこれまで、仕事終わりに何かをする、どこかに行くということを極力避けてきた。余計に体力を消費し、次の日の仕事に支障が出ることを懸念していたためである。帰宅後は、ご飯を食べてお風呂に入り、そのまま寝る。そんな日々を送ることが多かった。しかし最近では、仕事以外の時間を意識的に作ることで、心身のリフレッシュを図れるだけでなく、仕事のパフォーマンスにも良い影響を与えているのではないかと感じ始めている。仕事を終えた後、どこにも寄らずに家に帰っても、本を読んだりNetflixなどで気になっていた映画を観たりするなど、自分の時間を有効に活用するようになった。

意識的に時間を作るようになってから気付いたことがある。それは、新しいことに取り組む時間を作っても、そのせいで睡眠時間が削られたりすることはほとんどないということだ。「平日は何かに取り組む時間がない」と思い込んでいたが、実際にはSNSやYouTubeなどで無意識に多くの無駄な時間を費やしていたことに気付かされた。

多くの社会人は忙しく、仕事以外の時間を活用することは難しい。しかし、そのような中でも、毎日少しの時間を確保して自分にとって価値のある時間を作っていきたいと考えている。（竹）

JC・OEM

定時総会とセミナーを開催

日本化粧品受託製造業懇談会（JC・OEM）は10月7日、第23回定時総会と第29回JC・OEMセミナーを開催し、会員企業を含む関係者約200人が参加した。

定時総会では東陽化成の坂東義晃社長が登壇し、「昨年5月に新型コロナウイルスに対する規制が緩和され、化粧品業界の各企業が市場回復に向けて動き出した。また、アフターコロナ、ウィズコロナの新たな時代を迎え、各企業が積極的に事業変革を進めるフェーズに入っている。状況は目まぐるしく変化しているが、その中で柔軟に対応していくことが求められている」と話した。また、会員数については新規の入会はなく、令和6年7月末時点の会員数は108社であることを報告した。

続くセミナーでは、第1部「中国・台湾の最新規制情報」、第2部「化粧品薬事・表示の疑問」、第3部「化粧品OEM／ODM業界の現状と将来」のタイトルで講演が行われた。

第1部「中国・台湾の最新規制情報」では、WWIPコンサルティングジャパン シニアコンサルタントの花田舞佳氏、コンサルタントの清水こゆき氏が登壇し、中国・台湾の最新規制情報とOEM／ODMが注意すべきポイントについて説明を行った。

第2部「化粧品薬事・表示の疑問」では、日本化粧品検定協会顧問の中田和人氏がQ＆A形式で化粧品薬事・表示に関する疑問に答えた。

第3部「化粧品OEM／ODM業界の現状と将来」では、東京農大客員教授・博士の宮下忠芳氏が登壇し、OEM／ODMにおいてはさらなる企画力と開発力が求められていることや、官能評価技法を取り入れて五感に訴える商品開発を行うことの重要性について言及した。

講演終了後、閉会の挨拶では東洋ビューティの岩瀬史明社長が登壇し、「我々OEM／ODMは単なる化粧品の開発・製造にとどまらず、感動をもたらすモノづくりを追求しなければならない。講演を通じて、我々が何を目指すべきなのかを改めて考えさせられた」と締めくくった。